

米国カリフォルニア州 出荷の最盛期に向かうブドウ産業

[FreshPlaza 2024年8月27日](#)

学校の夏休みが終わり、秋の天候が近づく中、カリフォルニア州の生食用ブドウ産業は、出荷の最盛期に向かって準備している。毎年、収穫量の約65%が9月1日以降に出荷される。

カリフォルニア州生食用ブドウ委員会のキャスリーン・ネイブ会長は、「9月から12月にかけては、80品種近くのブドウが収穫され、販促活動が拡大し、収穫物の大部分がカリフォルニア州産のブドウを愛する世界中の消費者に出荷されるエキサイティングで生産的な時である。秋から初冬にかけてカリフォルニア州のブドウを宣伝する強力な世界的販売促進キャンペーンは、品種の選択と優れた品質、販売促進できるだけの出荷数量と結びついて、強い需要を生み出す」と述べた。

同氏は、米国国内が最大の市場であり、取引先の小売業者からの需要が強い一方で、今年は輸出市場での需要が大幅に増加しており、また米国農務省は今シーズン、(食料バンク事業等による)ブドウの買い入れを増やし、クリスマス近くまで配布することが既に予定されていると指摘した。

作柄に関して同氏は、業界関係者は収穫量を推定するために年に3回集まり、何十年にもわたって高い精度で予測を行っていると言う。同氏は、「秋になると個人的な見解が出回り、カリフォルニア州産のブドウが足りないという話がよく聞かれる。カリフォルニア州の業界の中から出たか外から来たかにかかわらず、こうした個人的なお話はしばしばニュースを装っている」と言い、それらを過度に重視しないことを提唱している。

収穫が12月に入っても続くことから、ネイブ氏は、小売業者は秋から初冬までの間にカリフォルニア州産のブドウをストックする機会があるとして、「カリフォルニア州の食用ブドウ産業は、今後の良好な天候、大きな需要、米国と21の輸出市場で12月中まで予定されている販売促進活動を見据えて動き出している」と述べた。

(関連記事)米国カリフォルニア州 秋の果実をリードするブドウ

[The Packer 2024年8月27日](#)

(記事の一部を省略しました。)

カリフォルニア州のブドウ

秋の収穫の中で、カリフォルニア州産のブドウは消費者にとって最高の選択肢であり、州の食品農業局によると、同州の生産額上位10位までの農産物の1つにランクされている。

サンワールドインターナショナル社のジェン・サンチェス販売担当副社長は、米国のブドウの出荷シーズンは、年にもよるが、通常6月にコーチェラバレー地域で始まり、11月頃にサンホアキンバレー地域で終わるとして、「弊社のブドウ品種のうち、ミッドナイトビューティー、オータムクリスプ、スカーロットシードレス、アドラシードレス、さらに新ブランドのエピッククリスプとアプローズなどが秋に出荷される」と述べた。

サンチェス氏は、カリフォルニア州の暖かく晴れた日中と、コーチェラバレーやサンホアキンバレーのさわやかな涼しい夜は、歯ごたえと甘みのある完璧なブドウを育てるのに最適な条件を提供すると言いつつ、「長い生育期間と夏季の降雨量が少ないことも、理想的な生育条件に貢献している。果粒は自然とサイズが大きくなり、一部の市場で好まれている。ほとんどの果実は米国内で栽培及び販売されるため、最終目的地までの輸送時間が短縮され、鮮度が長持ちする。カリフォルニア州は、サンワールド社が最初に新品種を栽培し、市場に投入する場所の1つでもある」と語った。

フレッシュファームズ社の営業担当者であるショーン・リックス氏は、同社は今シーズン、スイートグローブ、グレートグリーン、アリソン、クリッシー、キャンディハーツなどの厳選された品種に注力しており、出荷量は合計9,400万箱と見込んでいるが、最終的な数値は12月に確定する予定だと言う。同氏は「弊社では、特にスイートグローブ品種に満足している。これは、果粒が特大の緑色ブドウで、自然に大変よく育つ。収穫は7月に開始して8月下旬に終了し、環太平洋地域に大量に輸出されている」と述べた。

秋の品種に関しては、同社は積極的にアリソン品種を植えており、同氏は、これは果粒が自然に特大になる風味豊かな赤ブドウで、全体が赤色によく着色すると述べている。アリソンの収穫は8月下旬で、栽培方法や土壌の質によっては10月まで続くこともある。

サンビューマーケティングインターナショナル社のミッチ・ウェッツェル副社長は、同社は権利を有するブランドや品種、特に種なし赤ブドウのスパークルと種なし緑色ブドウのステラベラで、絶好調の出荷シーズンを迎えているとして、「弊社は、この2つのブドウに対する多くの支持と高い需要を目の当たりにしている。これらはこのクラスのトップに躍り出ているようだ」と述べた。

ブドウの消費

サンチェス氏は、ブドウは、秋に行われるテールゲートイベント(駐車場で車の後部を開けて行うパーティー)、屋外の娯楽行事、またはパーティーを主催した時などに消費者の間でよく使われていると話す。

同氏は、「ブドウは、消費者の活動の中にさわやかで甘く、歯ごたえのある食感を提供しつつ、健康的で、水分補給にもなる。また前菜の盛り合わせの大皿に加えたり、ハロウィーン用にブドウの砂糖漬けを作ったり、子供の弁当箱に詰めたり、あるいは単に健康的なスナックとして楽しんだりするのに最適である」と言う。

フレッシュファームズ社では、特産ブドウのキャンディハート品種が目玉である。リックス氏は、同品種はその非常に甘い風味がユニークであり、特大の果粒が特別で、国内外で人気があると述べている。

サンビューマーケティングインターナショナル社の有機プログラムは、消費者からますます関心を集め、長期化している。ウェッツェル氏は、「弊社として嬉しいことに、引き続き10月と11月の有機販売計画を構築する中で、売上の増加も見られるようである。以前は、ほとんどの人にとって有機ブドウは10月になると減り始めていたが、ここ数年の新しい傾向として10月と11月に非常にうまくいっている」と述べた。

同社のブドウは最初から最後まで有機栽培品であるが、ウェッツェル氏は「小売業者は終盤にはそれほど熱心なように見えなかったが、今では徐々に関心が高まっており、消費者は特に11月の期間、さらには12月に入ってもますます熱心になっている」と語った。

ウェッツェル氏は、「もう一つの傾向は、種無し赤ブドウと種無し緑色ブドウの割合が、バランスがよりよく取れるところにシフトしていることである。弊社では、両方の色の販促が同時に見られることが多くなっている」と付け加えた。

2024年秋の出荷シーズンの見通し

リックス氏は、カリフォルニア州産ブドウの作柄に関するフレッシュファームズ社のニュースリリースで、「今年の熱波は収穫量に影響を与えた。猛暑は、特にフレームやサマーロイヤルのような色の濃いブドウに顕著な影響を及ぼした。これらのブドウは着色が非常に遅く、先週から色づき始めたばかりである。緑色ブドウはわずかに遅れただけで、暑さが和らいだ時に成熟を再開し、現在では昨年より約2週間進んでいる。色の濃いブドウは昨年とほぼ同じペースで成熟している」と述べている。

リックス氏は、同社がブドウの風味、外観、魅力的なパッケージ等のすべての側面をカバーするように戦略を調整したことで、消費者の好みが増える中で現在の課題を克服し、将来の成功に向けて自らを位置づけることができたことと述べ、「これらの好みに合わせることで、可能な限り最高のブドウを市場に届けることができる」としている。

ウェッツェル氏によると、この暑さとそれが秋のブドウシーズンの後半に与える影響について多くの議論がなされてきた。同氏は、「昨年学んだ教訓は、作柄に関係なく、カリフォルニア州のブドウ産業は優れたブドウを出荷することに注力するということである。昨年はハリケーンのために感謝祭(11月下旬)まで出荷が続かないと思われていたが、総出荷量が20%減の7,700万箱でも12月に入るまで出荷できることが証明された。天候の制約が何であれ、どの年でも同じことが言えると思う。カリフォルニア州のブドウ産業は、12月まで出荷できるように全力を尽くすことを約束している」と述べた。

執筆者: ジル・ダットン (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)